

# 絶賛工事中! 関津トンネル



けんせつフェスタの催しの一環で、国道422号トンネルの現場見学会が行われた。先着50人限定で、現在建設中の関津トンネルを見学した。

## トンネルができるまで

- ①山をショベルカーやダンプカーで掘る。1メートル彫って出た土を運び出すのに3～4台のダンプカーが必要になる。
- ②トンネルのアーチの形をした枠を慎重にはめ込み、枠と枠の間をコンクリートで固める。
- ③トンネル工事の大敵は、水。トンネル内への漏水を防ぐために、ビニール製の防水シートを貼る。
- ④電灯などの設備を作り、完成。

## 関津トンネルとは?

見学したトンネルは、国道422号の道路改築事業の一環として大津市南郷六丁目～大石東三丁目区間で工事が進められている。この区間は、国道422号の中でもカーブが多く、幅員、歩道整備状況とともに不十分な状態であり、地域の生活交通や、行楽シーズンの観光交通に支障をきたしている。また、近年の大雨による土砂流失による通行止めが発生し、災害に対して脆弱な道路となっている。この事業は、人々が安全に利用できるように整備するものだ。

## トンネルの新事実

- ・一日あたりほれる長さ→約6メートル  
☞トンネルを作る山の土質によってほれる長さは変わる。
- ・トンネルにはもうひとつの道がある  
☞トンネルのなかで火災や地震が起こったとき容易に別の空間へ移動するための避難通路。
- ・一番危険な作業は、トンネルのカーブの形をした枠をはめ込むこと。  
☞山がくずれて、作業車が埋まる危険性がある。
- ・トンネルを掘るのには、ダイナマイトが使われる!  
☞土質によって使われないときもある。

## トンネル見学を通して

日頃何気なく通っているトンネルは、多くの人の手によって作られるということをもっと感じて。山が崩れるなどの危険が伴う中、完成に向けて作業が進められている。製作中のトンネルを間近で見て、トンネルの大きさに圧倒された。丁寧に行われる作業や安全を守りたいという思いが人々の安心につながっていると改めて感じた。